

魅力ある県立短期大学づくりに関する 進路指導担当者へのアンケート集計 結果

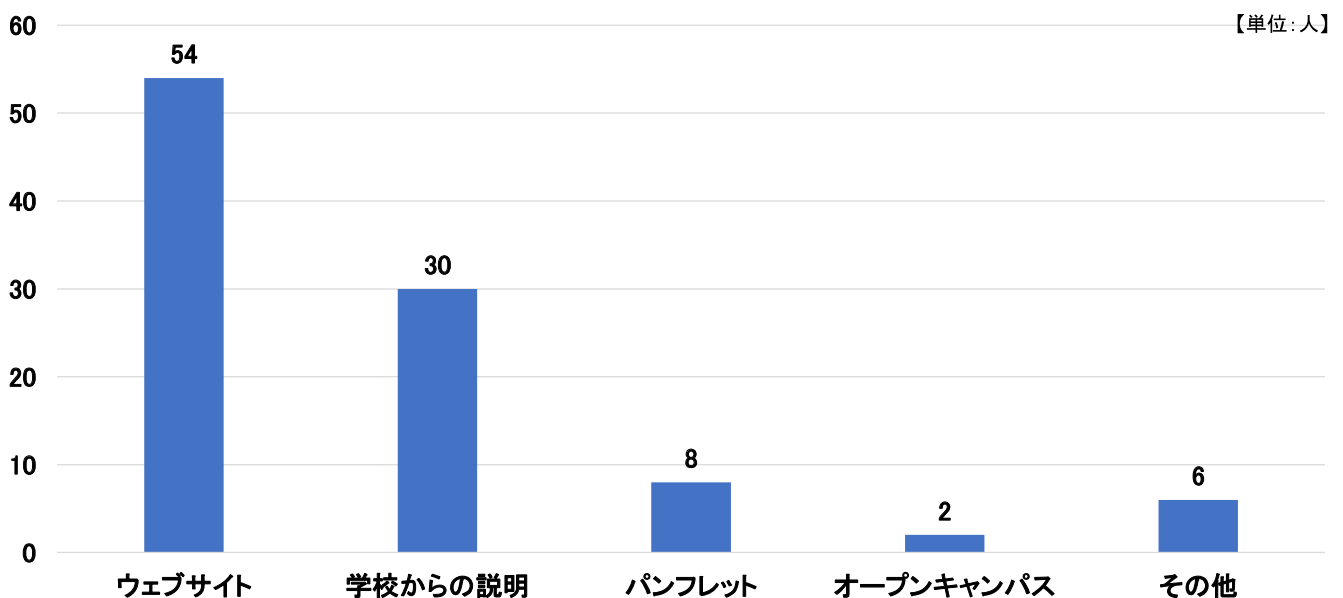
実施期間: 令和6年9月2日(月)～9月13日(金)

対象者: 令和4年度～令和6年度に鹿児島県立
短期大学に入学実績がある鹿児島県内
の68校の進路指導担当者

回答者数: 102人

1 進学先の情報収集方法(一択)

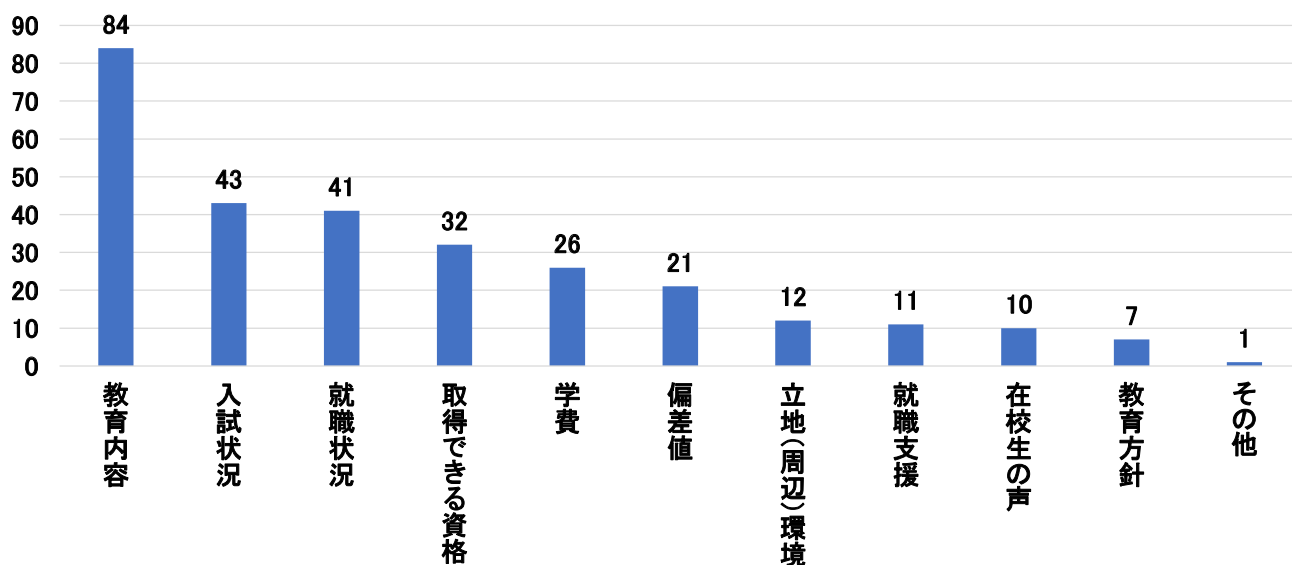
進学先の情報収集方法は、「ウェブサイト」が最も多く、次いで「学校からの説明」が多かった。



2 重視している進学先の情報(3つまで選択)

重視している進学先の情報は、「教育内容」が最も多く、次いで「入試状況」、「就職状況」が多かった。

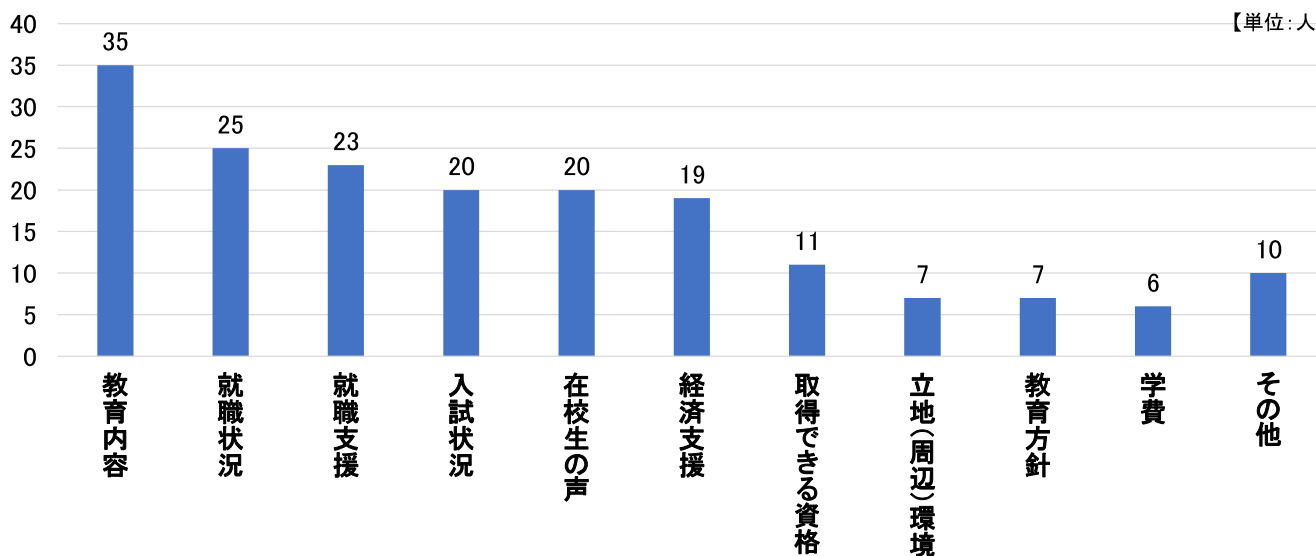
【単位:人】



3 不足している情報(3つまで選択)

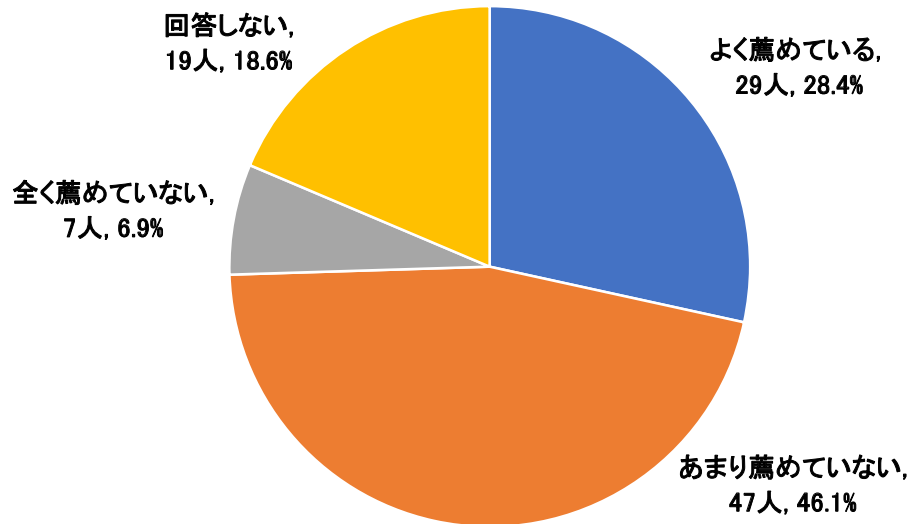
不足している情報は、「教育内容」が最も多く、次いで「就職状況」、「就職支援」が多かった。

【単位:人】



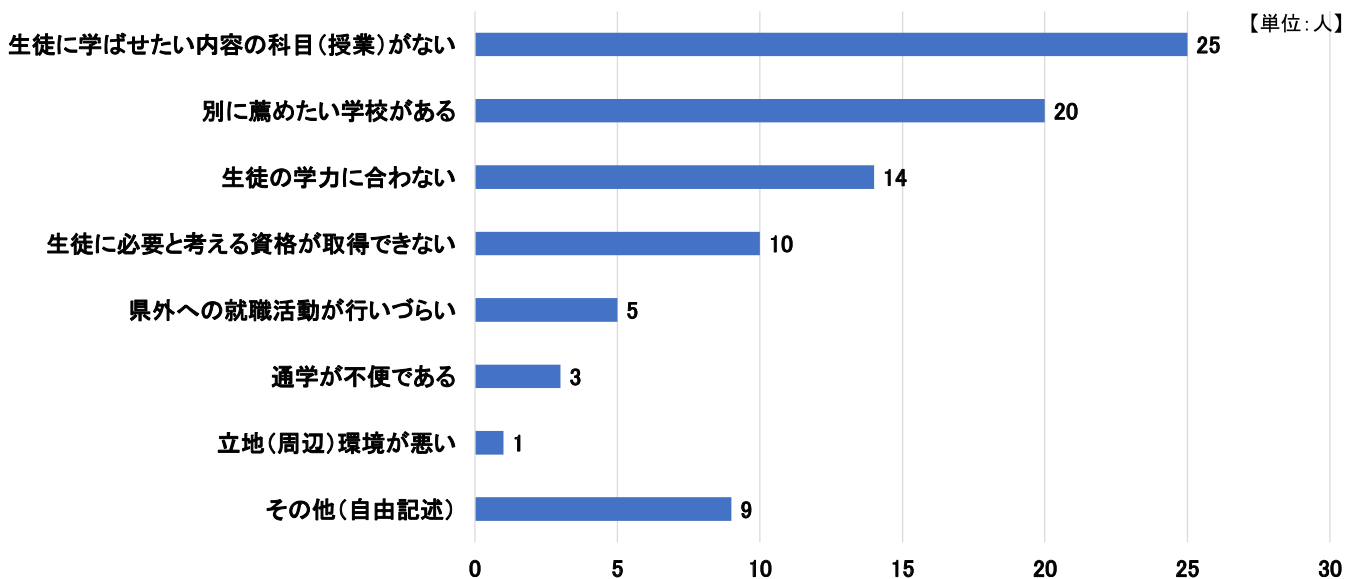
4 県立短期大学を薦めているか(一択)

進学先がはっきりと定まっていない生徒へ県立短期大学を薦めているか聞いた結果、「よく薦めている」が約3割、「あまり薦めていない」が約5割、「全く薦めていない」が約1割の回答があった。



5 県立短期大学を薦めていない理由(3つまで選択)

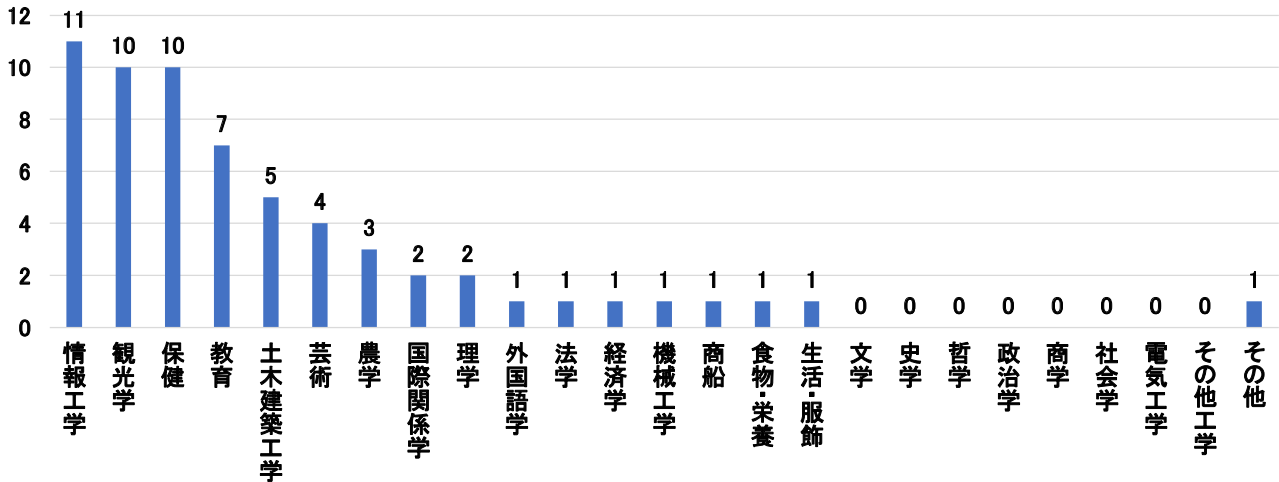
「あまり薦めていない(47人)」、「全く薦めていない(7人)」の理由として、「生徒に学ばせたい内容の科目(授業)がない」が最も多く、次いで「別に薦めたい学校がある」が多かった。



6 鹿児島県立短期大学にあれば生徒に薦める学部・学科系統(3つまで選択)

県立短期大学を薦めない理由として「生徒に学ばせたい内容の科目(授業)がない(25人)」と回答した進路指導担当者が、県立短期大学にあれば生徒に進学を薦める学部・学科は、「情報工学」、「観光学」、「保健」が多かった。

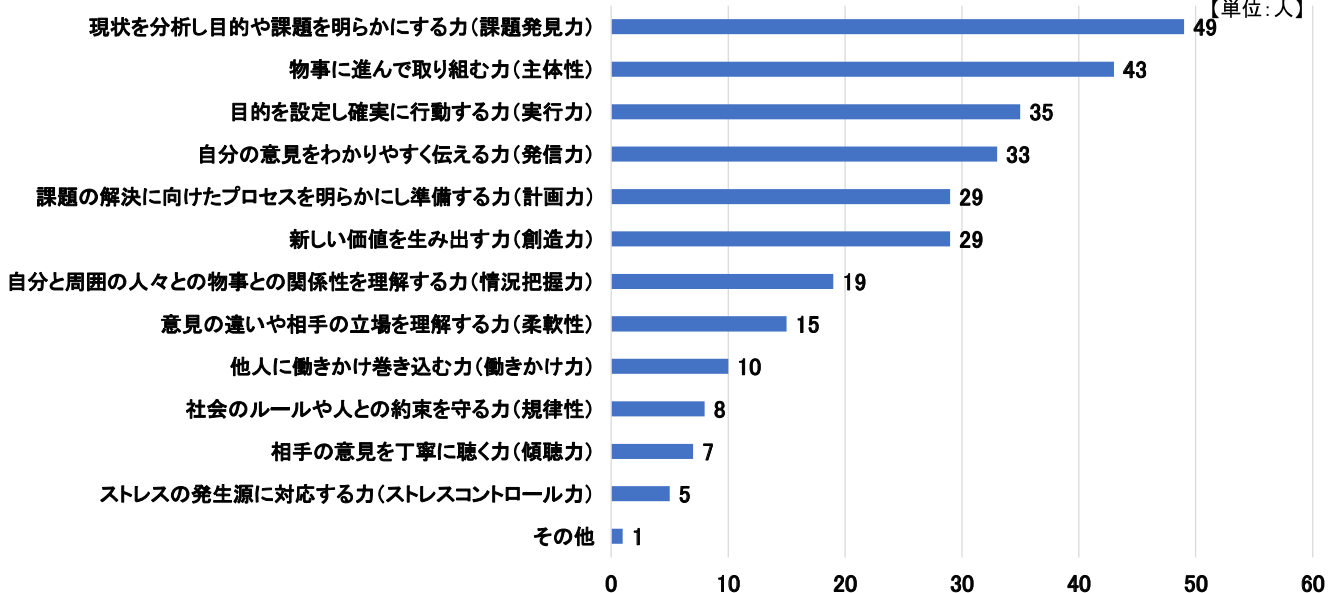
【単位:人】



7 伸ばして欲しい力(3つまで選択)

生徒に伸ばして欲しい力は「現状を分析し目的や課題を明らかにする力(課題発見力)」、「物事に進んで取り組む力(主体性)」、「目的を設定し確実に行動する力(実行力)」が多かった。

【単位:人】



8 取り組んで欲しい教育の主な意見(自由記述)

県立短期大学に取り組んで欲しい教育について36人から回答があり、その内容は次表のとおりであった。

回答	回答
AI等の情報関係の学習の充実	職業学習の充実
観光学科の創設	キャリア教育・就職支援の充実
教員養成の充実(小学校教育養成の拡大等)	第二部学科の継続
国際関係学・国際文化学の創設	生活科学の名称変更 (建築デザインが分かる名前への変更)
理科学科の充実	短期大学の継続
建築学科の充実	四年制大学編入への指導の充実
保健・医療系学科の充実	四年制大学への移行
看護学科の創設	四年制大学とは異なるカリキュラムの充実
「僻地医療」, 「災害医療」に特化した学習	高校との連携強化(高校での課題研究への助言, 高校での設備ではできない実践やアプローチ等)
管理栄養士資格の取得	立地の変更
教養学部の充実	

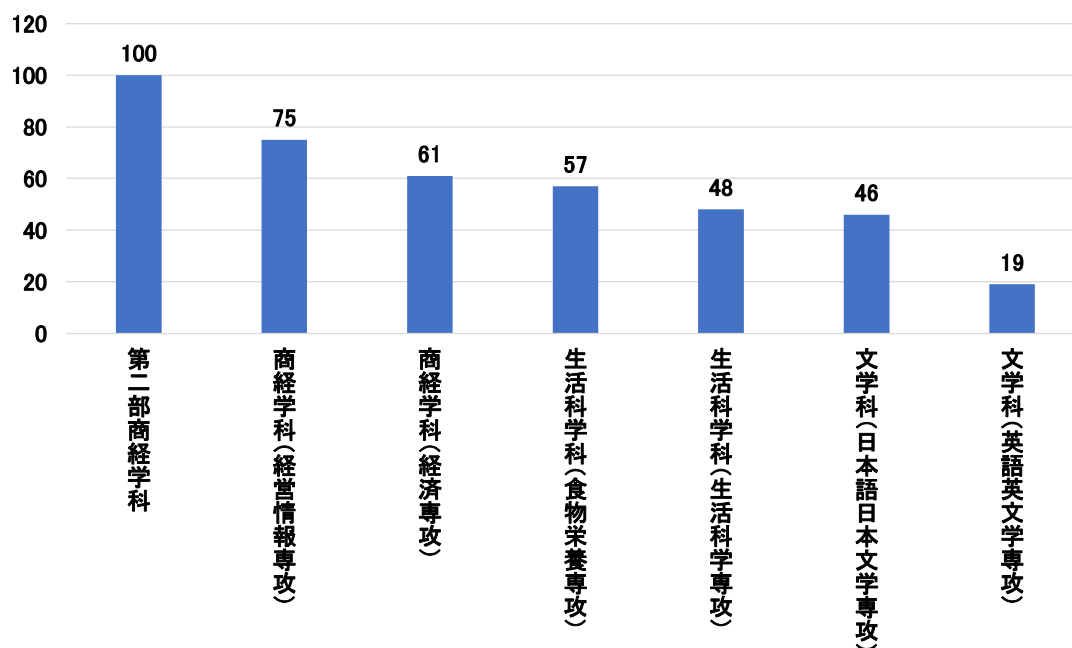
魅力ある県立短期大学づくりに関する 在校生へのアンケート集計結果

実施期間: 令和6年9月12日(木)～10月11日(金)
回答数 : 406人

1 在籍している学科・専攻

各学科からの回答は以下のとおりであり、計406名からの回答があった。

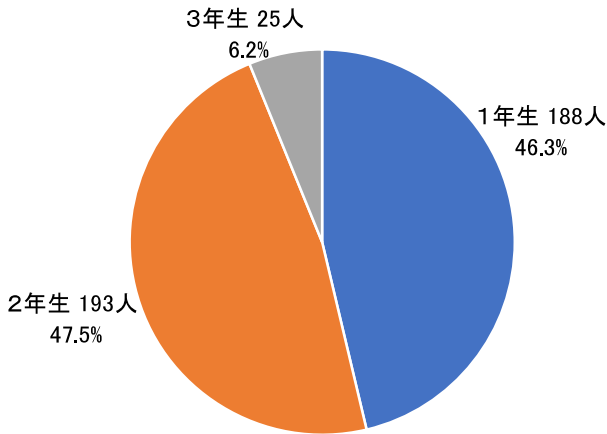
【単位:人】



2 回答者の構成

回答者の構成は、1年生と2年生が5割弱、3年生が約1割となった。

【単位：人】



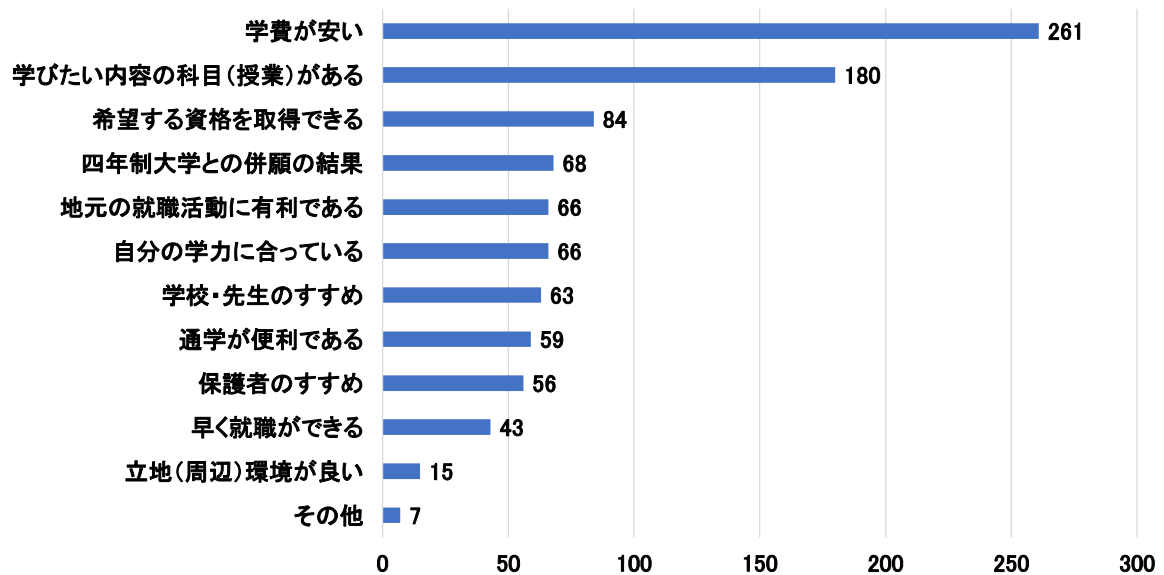
	1年生	2年生	3年生	総計
第一部	153	153		306
文学科（日本語日本文学専攻）	22	24		46
文学科（英語英文学専攻）	13	6		19
生活科学科（食物栄養専攻）	27	30		57
生活科学科（生活科学専攻）	28	20		48
商経学科（経済専攻）	28	33		61
商経学科（経営情報専攻）	35	40		75
第二部商経学科	35	40	25	100
計	188	193	25	406
回答率（回答者数/在校生数）×100	81.0%	77.8%	37.3%	74.2%

在校生数は令和6年4月1日現在

3 鹿児島県立短期大学を進学先とした理由（3つまで選択）

鹿児島県立短期大学を進学先とした理由は、「学費が安い」が最も多く、ついで「学びたい内容の科目（授業）がある」が多かった。

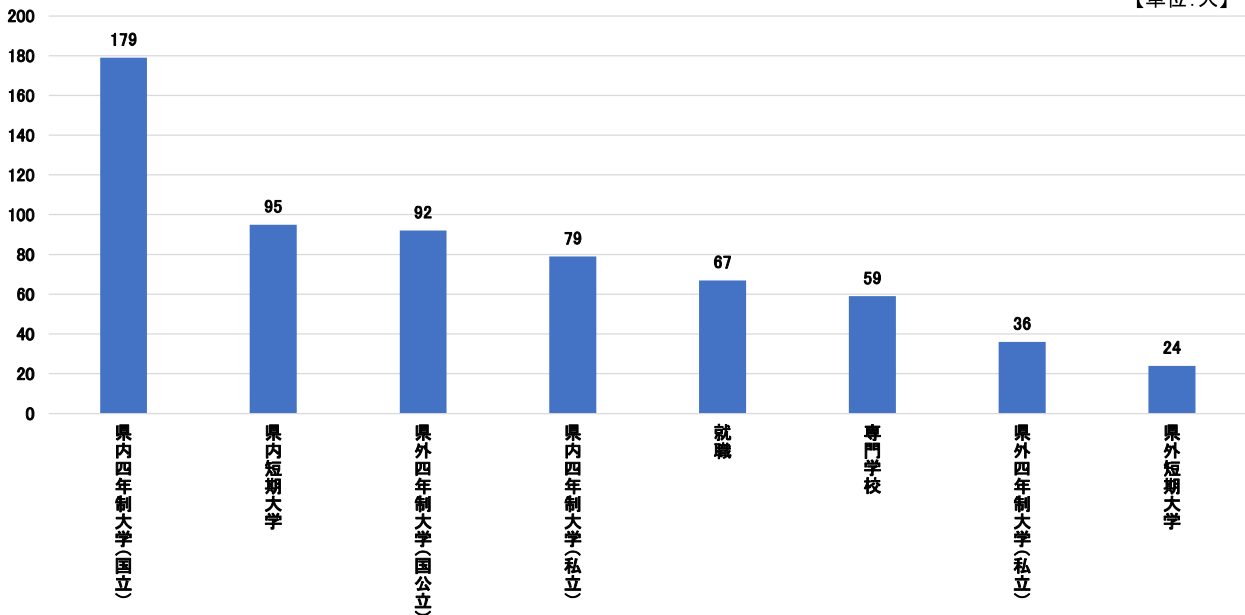
【単位：人】



4 入学前に検討していた県立短期大学以外の進学先候補(該当するものすべて)

入学前に検討していた県立短期大学以外の進学先候補は、「県内四年制大学(国立)」が最も多く、次いで「県内短期大学」、「県外四年制大学(国公立)」が多かった。

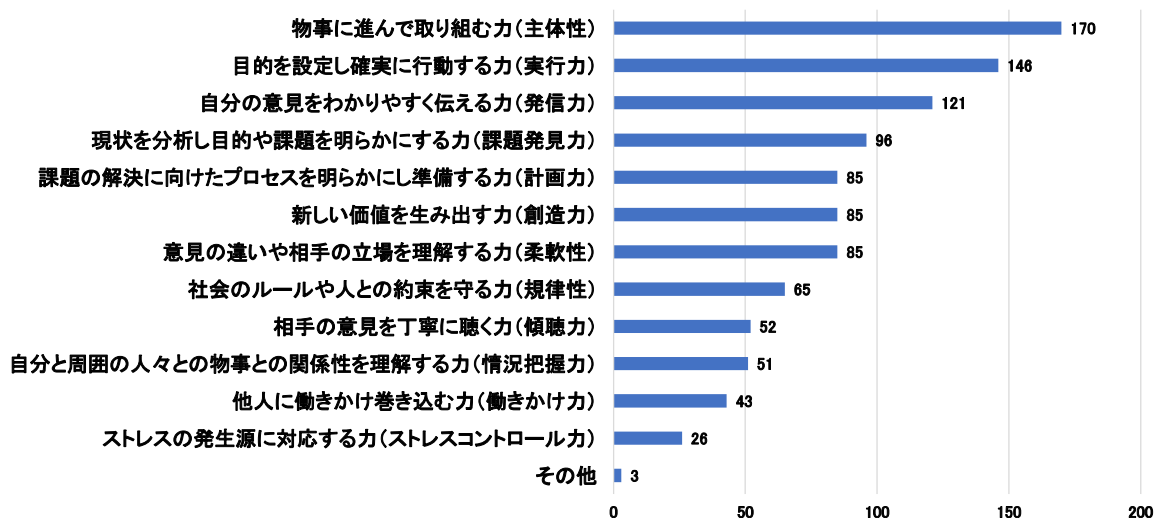
【単位:人】



5 鹿児島県立短期大学で身につけたい・伸ばしたい力(3つまで選択)

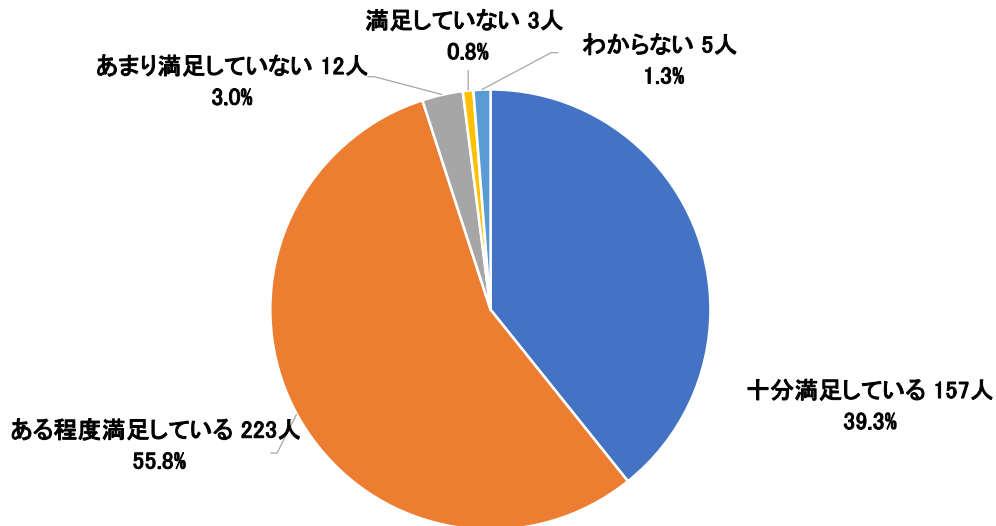
鹿児島県立短期大学で身につけたい・伸ばしたい力は、「物事に進んで取り組む力(主体性)」が最も多く、ついで「目的を設定し確実に行動する力(実行力)」、「自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)」が多かった。

【単位:人】



6 鹿児島県立短期大学の教育内容に対する満足度(一択)

鹿児島県立短期大学の教育内容について、約4割が「十分に満足している」と回答し、約6割が「ある程度満足している」と回答した。



7 鹿児島県立短期大学で更に学びたいこと(自由記述)

鹿児島県立短期大学で更に学びたいことについて33人から回答があり、その内容は、次表のとおりであった。

回答	回答
情報関係 ・プログラミング (Python)	国際情勢について
日本語関係 ・語彙力を鍛える授業 ・近代文学, 現代文学	宗教学
外国語関係 ・ロシア文学・ドイツ文学 ・語学学習の拡充	リベラルアーツ系の科目
法律	別学科の科目
経済 ・行動経済学について ・食品の市場経済 ・企業, 株について	有名な方による講義
簿記の学習の充実	少人数ゼミの充実
地域についての学習 ・地域経済 ・地域との交流	編入試験に向けた学習
各地方の工芸品について	公務員試験対策
保育所の栄養士になるための学習	問題解決力
管理栄養士の受験資格	

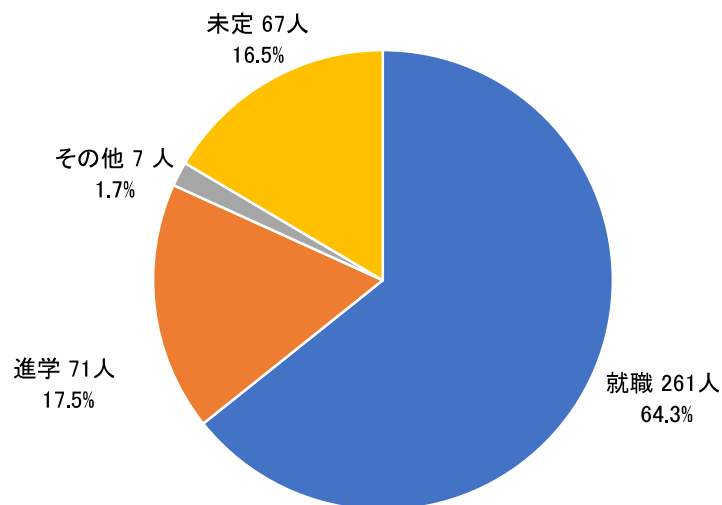
8 鹿児島県立短期大学で不足している教育内容(自由記述)

鹿児島県立短期大学で不足している教育内容について23人から回答があり, その内容は, 次表のとおりであった。

回答	回答
教員採用試験のための対策	マナーについて
語学学習の拡充	グループでの課題解決
英語のスピーキング学習	他専攻への授業解放
ミクロ経済学	発展的な学習
情報教育の充実	就職支援
科学分野の学習	四年制大学への移行
管理栄養士資格取得のための学習	ネットワークを活用した制度の構築 (課題提出等)

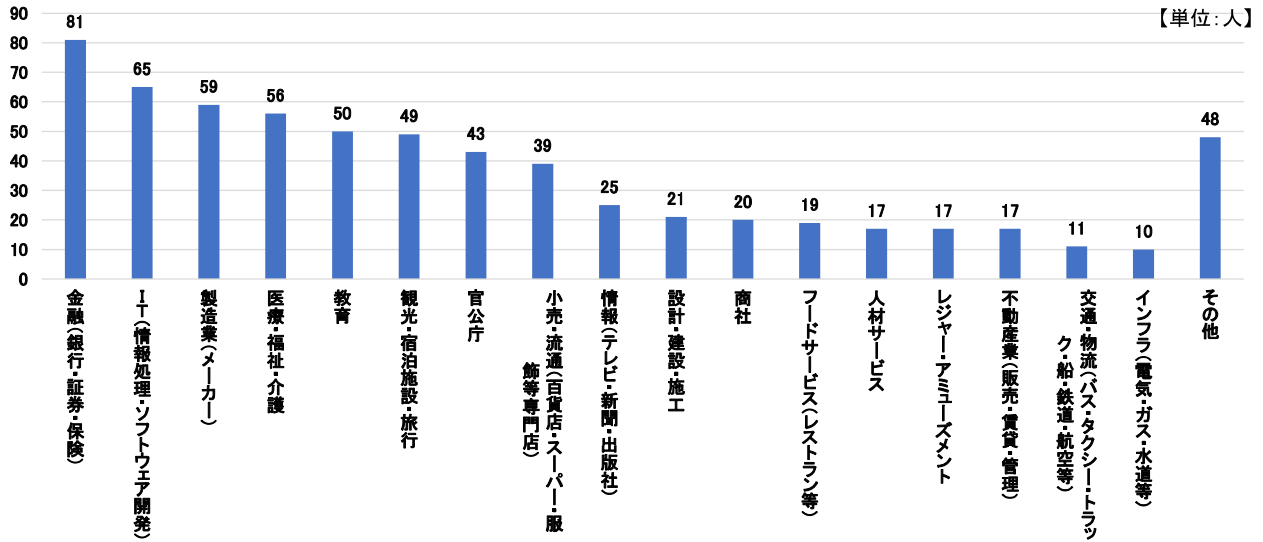
9 進路希望もしくは決定している進路(一択)

進路希望もしくは決定している進路について, 約6割が「就職」と回答し, 約2割が「進学」と回答した。



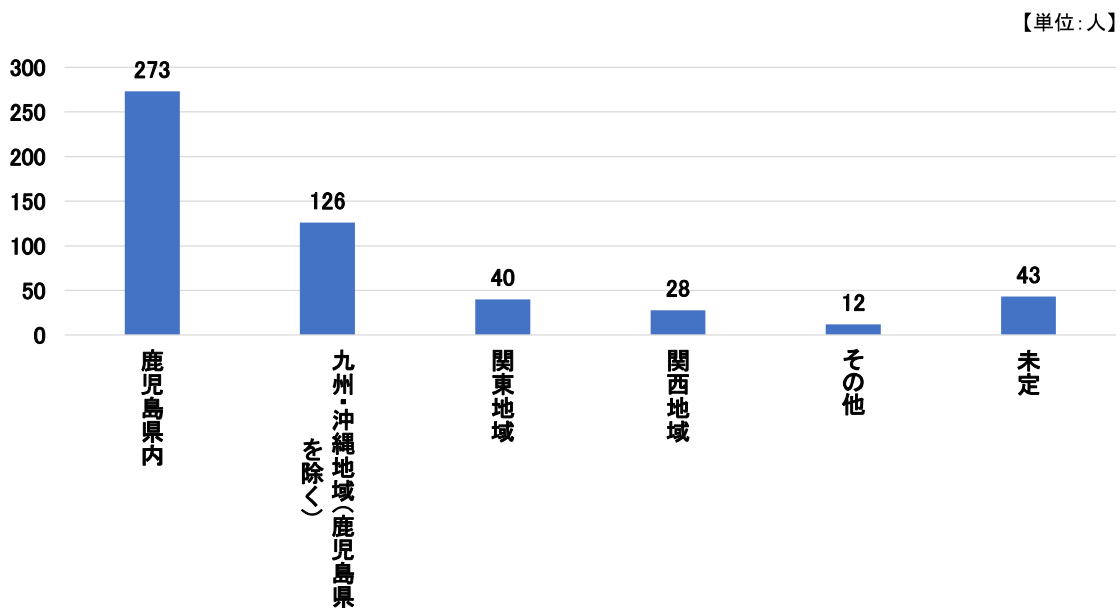
10 就職したい業種もしくは決定している業種(3つまで選択)

就職したい業種もしくは決定している業種は、「金融(銀行・証券・保険)」が最も多く、次いで「IT(情報処理・ソフトウェア開発)」、「製造業(メーカー)」が多かった。



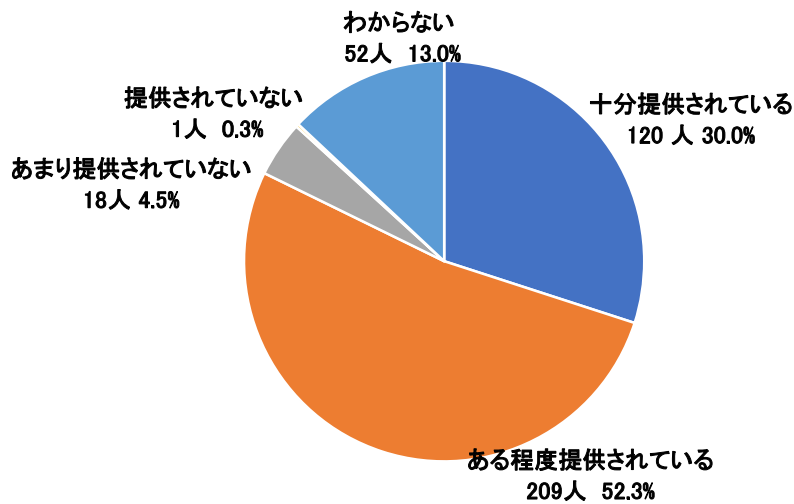
12 就職希望地域(2つまで選択)

就職希望地域は、「鹿児島県内」が最も多く、次いで「九州・沖縄地域(鹿児島県を除く)」が多かった。



12 県内企業の情報提供(一択)

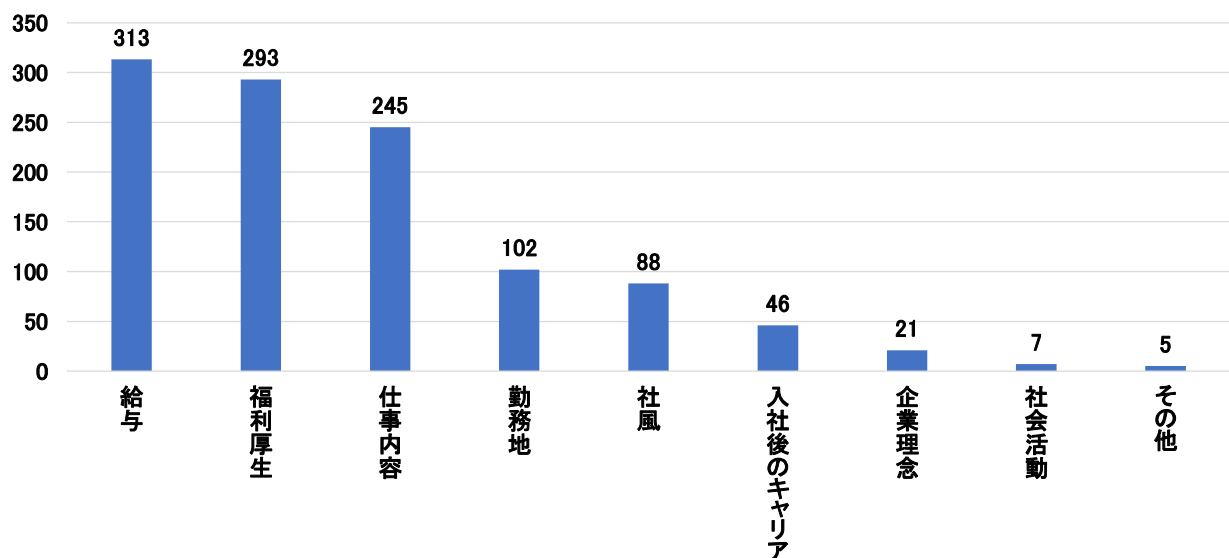
学生への県内企業の情報提供について、約3割が「十分に提供されている」と回答し、約5割が「ある程度提供されている」と回答した。



12 県内企業への就職を検討するために必要な情報(3つまで選択)

県内企業への就職を検討するために必要な情報は、「給与」が最も多く、次いで「福利厚生」、「仕事内容」が多かった。

【単位:人】



魅力ある県立短期大学づくり検討委員会の現地視察

1 開催概要

- (1) 日時
令和6年10月9日（水）午前9時50分から午前11時40分
- (2) 場所
県立短期大学敷地内

2 内容

- (1) キャンパス視察
県立短期大学事務局長が同大学内の各施設を案内し、説明を行った。
- (2) 検討委員会委員と在校生（14名）との意見交換
検討委員会委員からの質問に学生が回答する形で進められた。

（質問と主な意見）

① 在学中に習得したいことについて

- ・ 専門的な知識や技術，資格（栄養士，日商簿記など）の取得
- ・ 鹿児島島の魅力を再発見し，映像にして残せるような力
- ・ 鹿児島への理解を深めるための学び

② 卒業後の人生設計について

- ・ 四年制大学に編入して学びを深め，将来は鹿児島島の魅力を海外に発信できる人材になりたい
- ・ 学びを発信することに力を入れ，福祉の分野で社会貢献したい
- ・ 市役所で特産品を用いた地域活性化に取り組みたい

③ 県立短期大学で充実させてほしい教育内容について

- ・ AI等の情報化に対応した，DXに関する教育
- ・ 自分の考えを発信する力，想像する力を伸ばす教育
- ・ 外国語科目の充実
- ・ 株や投資などの金融関係の科目，金融リテラシーに関する教育
- ・ 中学校教諭二種（社会）の取得

④ 就職や四年制大学への編入において必要だと考える能力等について

- ・ コミュニケーション能力，文書構成能力や話力などの伝える力
- ・ 自己分析力
- ・ 自分で考える力，自分を表現する力

⑤ 入学前と入学後での県立短期大学へのイメージの変化について

- ・ 先生との距離が遠いと思っていたが、少人数教育による先生との距離が近く指導・助言が丁寧で的確
- ・ 授業の進みが早いイメージであったが、初歩的な学習から始まり分かりやすい授業
- ・ 少し真面目なイメージから、真剣に学びを追究しているイメージに変わった

⑥ 高校生への県短のアピールポイントについて

- ・ 県内就職が強い
- ・ 興味のあることを学校に相談すれば、協力してもらえる
- ・ 真面目な学生が多く、真剣に取り組みたい人には最適である
- ・ 夜間課程が設置されており、午前中に将来の自分のための活動ができる
- ・ 海外研修が用意されている

⑦ 四年制大学への編入に向けた対策・情報収集について

- ・ 進路資料室で過去の資料の確認
- ・ 先生に小論文の添削や専門科目の問題について解説をしてもらう
- ・ 県立短期大学の学生課にアドバイスをもらう

⑧ 県立短期大学が第何希望であったか

- ・ 参加学生が以下の項目で該当するところで挙手にて回答
① 第1希望（9名） ② 第2希望（2名） ③第3希望以下（3名）

⑨ 就職希望地域について

- ・ 参加学生が以下の項目で該当するところで挙手にて回答
① 県内への就職を希望している（9名）
② 県外への就職を希望している（3名）
③ 分からない（勤務地ではなく業務内容等を重視している）（2名）

⑩ 自分の進路を友人や兄弟に進めるか

- ・ 参加学生が以下の項目で該当するところで挙手にて回答
① 薦める（11名） ② 薦めない（3名）

⑪ 社会人になるまでに身につけたいことについて

- ・ 計画力（社会に出ると、計画的に仕事を進めることが重要）
- ・ 臨機応変に対応する力、物事に動じない心
- ・ スケジュール管理能力と決断力
- ・ 冷静に物事を考える力

⑫ 鹿児島県の企業・経済への要望について

- ・ 鹿児島県の県外・国外へのアピール、情報発信
- ・ 障害者雇用の取組の発信
- ・ 自治体と連携した大隅半島の活性化
- ・ 離島の魅力をもっと発信してもらいたい

魅力ある県立短期大学づくりに係る論点とアンケート等結果について

検討委員会で整理した論点を踏まえ、アンケート結果について以下のとおり整理した。

I 時代の要請に対応した教育内容の更なる充実

1 既存学科の教育内容の見直し

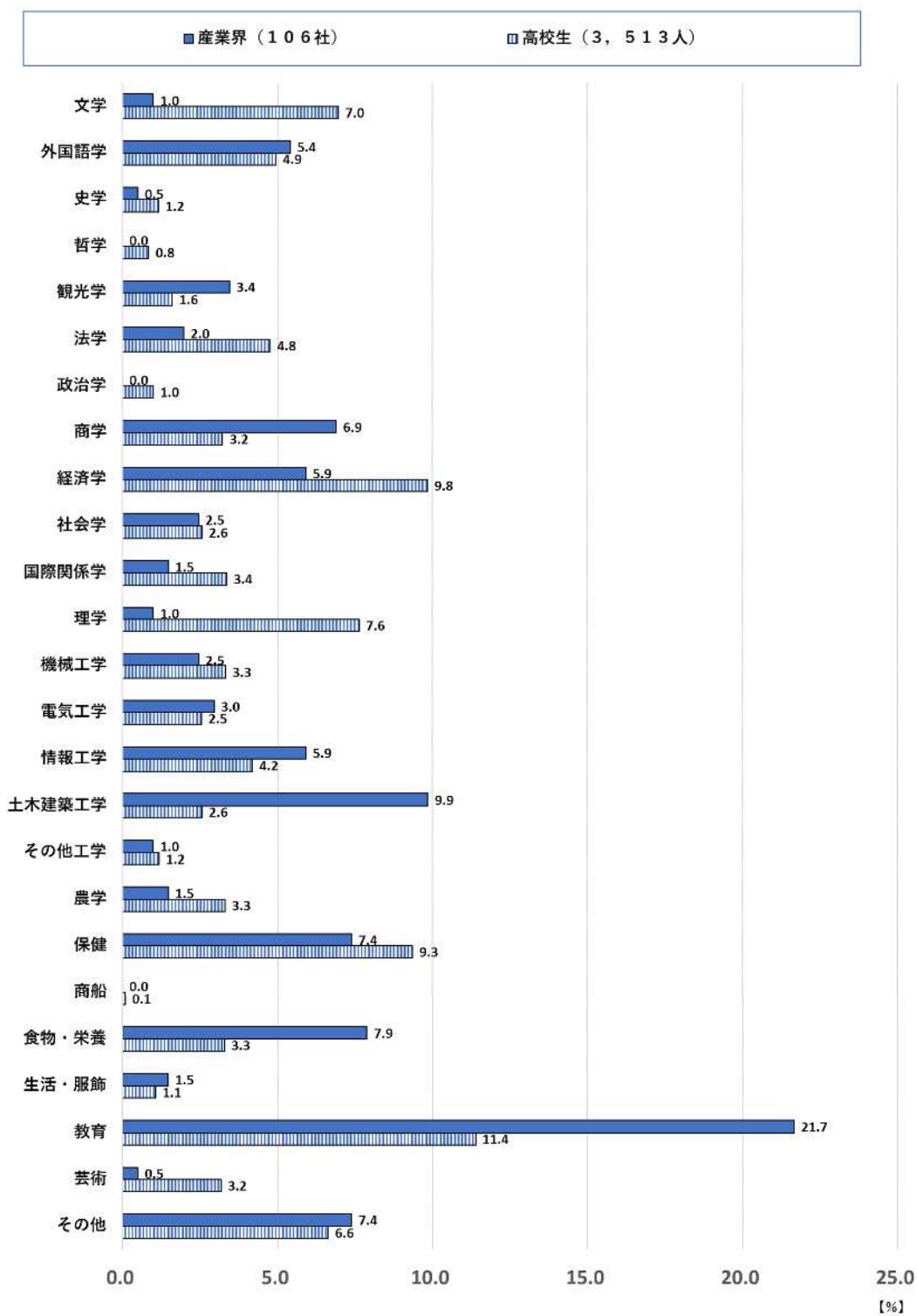
- (1) 産業界のニーズを踏まえた教育内容の見直しが必要ではないか。
 (2) 高校生のニーズを踏まえた教育内容の見直しが必要ではないか。

- ア 産業界のアンケートに回答のあった 300 社を業種別で見ると、「教育」，「製造業（メーカー）」，「建設関係（設計・建築・施工）」が多かった。
- イ 産業界に短期大学生に求める専門知識をアンケートで尋ねたところ、回答のあった企業等のうち約 4 割が「求める」との回答であった。
- ウ 「専門知識を求める」と回答のあった産業界を業種別に見ると、「教育」，「医療・福祉・介護」，「建設関係（設計・建設・施工）」が多く、求める専門知識としては、「教育」や「土木建築工学」，「食物・栄養」等が多かった。
- エ 産業界が短期大学生に求める具体的な専門知識では次の意見があった。
 ・ 児童の教育保育に関する知識，教職の知識，経理・簿記の知識
- オ 産業界が短期大学生に求める資格では次の意見があった。
 ・ パソコン操作，簿記・経理，語学
- カ 高校生のアンケートで、四年制大学又は短期大学への進学を希望する生徒の志望学部・学科系統は、「教育」，「経済学」，「保健」が多かった。
 短期大学への進学を希望する生徒に限れば、「教育」，「食物・栄養」，「経済学」が多かった。
- キ 進路指導担当者のアンケートで、生徒に県立短期大学を薦めない理由として「生徒に学ばせたい内容の科目（授業）がない（25 人）」と回答した進路指導担当者が、県立短期大学にあれば生徒に進学を薦める学部・学科は「情報工学」，「観光学」，「保健」の回答が多かった。

学部・学科系統の比較

- ① 産業界への質問
- ② 高校生への質問

「短期大学生に求める専門知識（3つまで選択）」
 「四年制大学・短期大学で志望する学部・学科系統（3つまで選択）」



(3) 文学科については、教育内容やネーミングの見直しが必要ではないか。

(例：外国の方に日本語教育ができる人材の育成，コミュニケーション力の強化)

- ア 高校生へのアンケートで，県短を志望しない理由で「学びたい内容の科目（授業）がない」と回答した高校生の中で，志望する学部・学科系統の設問に対して「文学」，「外国語学」と回答したものがあつた。
- イ 在校生のアンケートで，不足している教育内容として「英語のスピーキング学習」があつた。

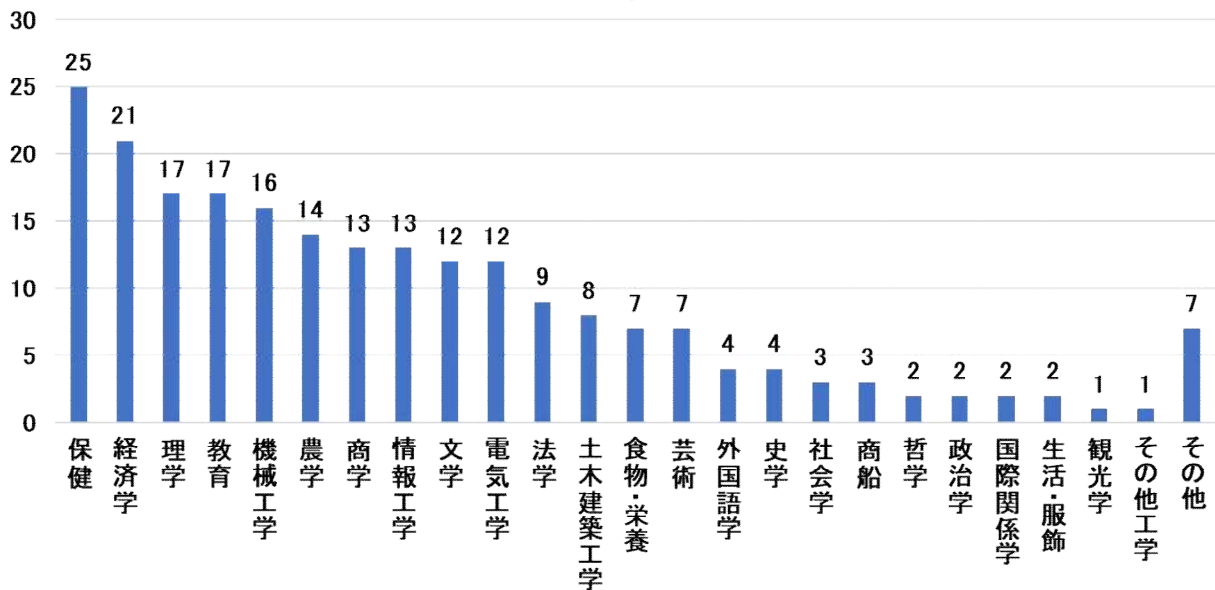
(4) 男子入学者の増加を目指した教育内容の見直しが必要ではないか。

(例：建築デザイン系の拡充)

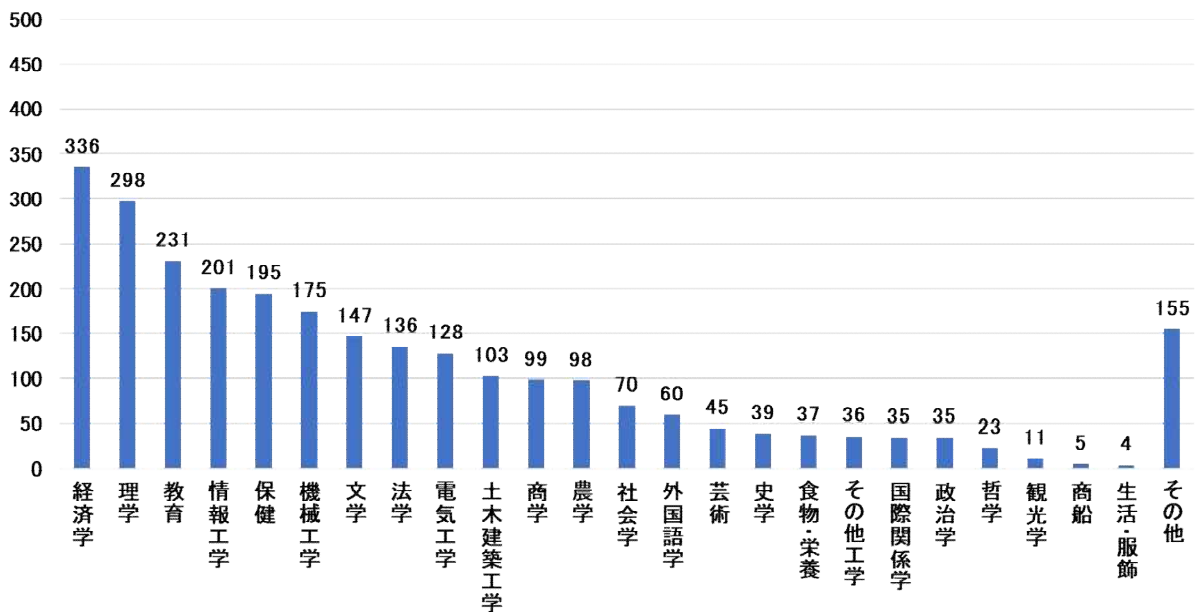
ア 短期大学を希望する生徒（615人）のうち、男子生徒（118人）が志望する学部・学科については、「保健」、「経済学」、「教育」、「理学」が多かった。

イ 進路指導担当者アンケートにおいて、「県立短期大学で建築が学べることが名称的に伝わりにくい。」という意見があった。

短期大学を志望する男子生徒(118人)



四年制大学・短期大学を志望する男子生徒(1,587人)



(5) リカレント教育の更なる充実が必要ではないか。

(例：長期履修制度の導入)

- ・ 産業界アンケートにおいて、県立短期大学で取り組んで欲しいリカレント教育・リスキリング教育は、情報分野のスキル向上を希望する等の意見があった。

種別	人間力向上	スキル向上	知識
主な内容	コミュニケーション	パソコン操作	語学（英語、中国語、韓国語など）
	協調性	プログラミング	簿記
	主体性	DX	銀行業務
	積極性	データサイエンス	ファイナンシャルプランナー
	行動力	ITパスポート	金融リテラシー
	理解力	自動化AI関連（RPA）	社会・介護・障害福祉
	思考力	画像解析	建設設備
	アウトプット	接遇・マナー	CAD・施工管理の書類作成
	プレゼンテーション		鹿児島島の地理・歴史・文化等
	問題解決能力		

(6) 鹿児島県の特性を活かした教育内容の見直しは必要ないか。

(例：観光関連産業が基幹産業であることを踏まえた見直し)

- ア 産業界のアンケートでは、「観光・宿泊施設・旅行」の11社の企業等から回答があったが、そのうち「観光学」の専門知識を求めるのは4社であった。
- イ 高校生アンケートにおいて、「短期大学」への進学を希望する生徒（615人）のうち、「観光学」を志望学部と回答したのは32人であった。
- ウ 進路指導担当者アンケートでは、県立短期大学を薦めない理由として「生徒に学ばせたい内容の科目（授業）がない（25人）」と回答した進路指導担当者が、県立短期大学にあれば生徒に進学を薦める学部・学科は、「情報工学」に次いで「観光学」、「保健」が多かった。
- エ 産業界へのアンケートでは、県立短期大学で取り組んでほしいリカレント教育・リスキリング教育として「鹿児島島の地理・歴史・文化等」という意見があった。

2 教養科目の強化

(1) 産業界や高校生のニーズを踏まえた教養科目の見直しが必要ではないか。

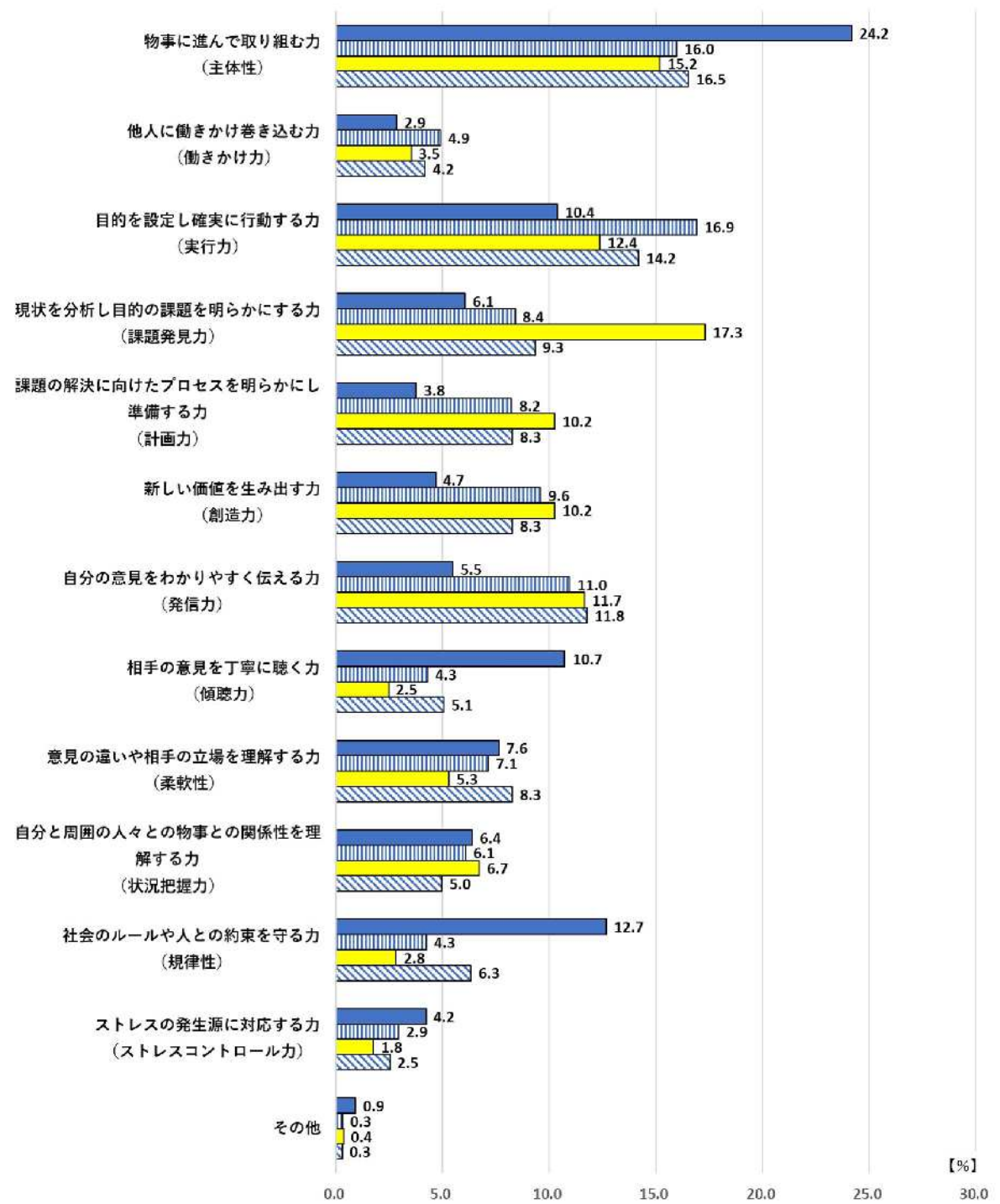
(例：コミュカ・表現力などの強化につながる科目の設定)

- ア 産業界が短期大学生に身につけて欲しい力は「物事に進んで取り組む力（主体性）」が最も多かった。
- イ 高校生が四年制大学・短期大学で身につけたい・伸ばしたい力は「目的を設置し確実に行動する力（実行力）」が最も多かった。
- ウ 進路指導担当者が高校の卒業生に身につけて欲しい力は「現状を分析し目的の課題を明らかにする（課題発見力）」が最も多かった。
- エ 在校生が県立短期大学で身につけたい・伸ばしたい力は「物事に進んで取り組む力（主体性）」が最も多かった。

身につけていて欲しい力・身につけたい力

- | | |
|-----------------|------------------------------------|
| ① 産業界への質問 | 「短期大学生に身につけていて欲しい力（3つまで選択）」 |
| ② 高校生への質問 | 「四年制大学・短期大学で身につけたい・伸ばしたい力（3つまで選択）」 |
| ③ 高校の進路指導担当への質問 | 「高校の卒業生に進学先で伸ばして欲しい力（3つまで選択）」 |
| ④ 在校生への質問 | 「県立短期大学で身につけたい・伸ばしたい力（3つまで選択）」 |

■ 産業界（300社） ■ 高校生（3,513人） ■ 進路指導担当（102人） ■ 在校生（406人）



(2) デジタル化やA I の時代に対応した教養科目の見直しが必要ではないか。

(例：情報分野の強化)

ア 産業界のアンケートでは、短期大学生に求める資格として「パソコン操作」という意見もあった。

イ 進路指導担当者へのアンケートでは、県立短期大学にあれば生徒に薦める学部・学科系統では「情報工学」が最も多かった。

ウ 進路指導担当者のアンケートでは、県立短期大学に取り組んで欲しい教育として、「AI 等の情報関係の学習の充実」という意見もあった。

エ 在校生のアンケートでは、県立短期大学で更に学びたいこと及び不足している教育内容で「情報関係」という意見もあった。

3 定員等の見直し

(1) 定員割れ学科の定員を減らすということではなく、既存学科の教育内容の見直しを踏まえた定員の配分変更が必要ではないか。

- ・ アンケート及びヒアリングでは、定員等の見直しに対する意見はなかった。

独立行政法人化について

1 これまでの説明事項

(1) 第1回検討委員会

独立行政法人（公立大学法人）制度の概要について
 （制度の創設，制度のポイント，制度の仕組み，期待される主
 な効果について説明。）

(2) 第2回検討委員会

独立行政法人化について
 （項目毎に，現在の県立短期大学における制度等と公立大学法
 人制度を整理し，公立大学法人制度において，一般的に言われ
 ているメリット・デメリットの主なものを説明）

2 これまでの主な意見

- 独立行政法人化というような，エッジの効いたオリジナリティのある運営ができる形に進めることも大事。
- 著しい環境変化に柔軟に対応するには，独立行政法人化のような体制は必要だと思われる。
- 学校を持続可能な形で運営していくには，経営の視点も大事。
- 文系の国立大学では外部資金の獲得は難しい状況にあり，県短の制度改革にとって，独立行政法人化のメリット・デメリットは慎重に検討すべき。
- 規模的に短期大学単体での独法化は難しい面があるのではないか。
- 本委員会においては，独立行政法人化ありきで進めるものではないので，独立行政法人についての理解を深めるということは重要であると思っている。
- 独立行政法人化については，これからも勉強が必要。
- 独立行政法人化すると財政基盤がどうなるのか気になるところ。

3 検討委員会での議論の整理

- 独立行政法人制度においては大学の運営面において期待される効果があると考えられるものの，上記の課題もあることを踏まえると，県短の独立行政法人化のメリット・デメリットは丁寧に検討すべき。

4 県短における独法化を判断する上での課題

- 公立短期大学の独法化については，短期大学単体での前例がないため，県短で独法化した場合の採算性や必要人員等について，現時点で目安となるものがない状況にある。
- 検討委員会でのこれまでの議論を踏まえると，独法化の是非の判断には，県短におけるメリット・デメリットを検討する必要がある。

地域社会への一層の貢献について

検討委員会で整理した論点に係る県短の取組及びアンケートでの関連意見等

論点①	子ども(小・中・高校生)に県短をよく知ってもらう必要があるのではないか。
取組内容	<p>○高校生を対象に、オープンキャンパス(夏)時に、各専攻にて講義を実施(学内でのミニ講義)</p> <p>*R7から秋のオープンキャンパスでも講義を実施予定</p> <p>○高校からの依頼を受け、学内でのミニ講義・高校での出張講義を実施</p> <p>○玉江小学校の校外学習の受入れ</p>
アンケート	○県内高校生(2年生)へのアンケートでは、「県短を知っている」又は「どのような学科等があるか知っている」と回答した生徒は、併せて6割余り
論点②	県民を対象とした講座・講演の更なる充実が必要ではないか。
取組内容	<p>○毎年1つのテーマを8回の講義に分けて実施(公開講座)</p> <p>○毎年秋に3週連続で金曜日の夜間に開催(金曜講演会)</p> <p>○毎年1回奄美群島で実施(奄美サテライト講座)</p>
アンケート	関連する意見等は特になし
論点③	地域との連携が必要ではないか。(例:地域行事等への参画)
取組内容	<p>○玉江小校区コミュニティ協議会会員(まちづくり部会委員)</p> <p>○鹿児島西警察署管内国際化対策連絡協議会会員</p>
アンケート	<p>○地域課題の解決などについて、フィールドワークなどを通じて、共に考えていけたら良い</p> <p>○在校生へのアンケートでは、県立短期大学で更に学びたいことについて「地域交流」との意見あり</p>
論点④	高校との連携強化が必要ではないか。
取組内容	<p>○県内高校との連絡会を開催(高等学校長対象:教育懇話会, 進路指導担当教諭対象:入試連絡会)</p> <p>○高校からの依頼を受け、学内でのミニ講義・高校での出張講義を実施</p>
アンケート	○県短で取り組んで欲しい教育内容等について、「高校での課題研究への助言, 高校の設備ではできない実践やアプローチ等」との意見あり

地域社会への一層の貢献について

論点⑤	企業との連携強化が必要ではないか。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○企業へのインターンシップ等企業を知る機会の確保 ○キャリアデザイン活動で、企業の人事担当者、卒業生との情報交換等を実施し、学生の就職活動に反映 ○「ネクスト鹿児島」に2024年10月1日に加盟（「産」（民間企業）「学」（高等教育機関）「金」（金融機関）が連携して地域創成に取り組む）
アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ○地域経済、企業などについて学ぶ機会があれば、学生も様々な企業に目を向けるようになり、より地域に根差した学校になるのではないか ○インターンシップによる就業体験（同意見他1件） ○会社見学や会社説明会など地元企業を知ってもらう機会を設けていただきたい ○地域課題の解決などについて、フィールドワークなどを通じて、共に考えていけたら良い【再掲】

論点⑥	県内大学との連携強化が必要ではないか。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○大学地域コンソーシアム鹿児島における取組（合同進学ガイダンス、他大学の講義受講（単位互換）） ○「ネクスト鹿児島」に2024年10月1日に加盟（「産」（民間企業）「学」（高等教育機関）「金」（金融機関）が連携して地域創成に取り組む）【再掲】
アンケート	関連する意見等は特になし